

市営魚菜小売市場施設概要

開設：昭和28年（1953年）

改築建物竣工：昭和42年（1967年）築52年

設置場所：八戸市大字湊町字久保38-1（JR陸奥湊駅向い、中心街から約5km）

設置目的：魚菜類の流通の円滑化、市民の消費生活の安定に資すること

（終戦に伴う引揚者等の生活困窮の救済も目的としていた）

施設規模：敷地1,417㎡、延床1,620㎡、鉄筋コンクリート2階建て

フロア構成：1階 店子（約30店舗）

2階 店子（1店舗）、貸事務所、貸会議室

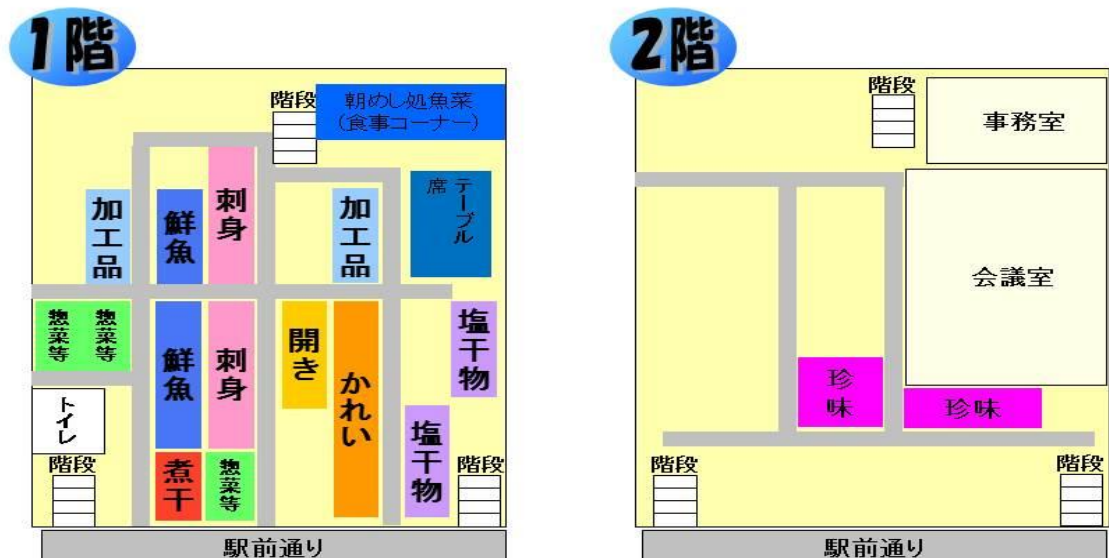
営業時間：午前3時～午後3時頃（売り切れ次第終了の店舗あり）

休業日：毎週日曜日、毎月第2土曜日、年始

備考：・専用駐車場なし

- ・管理運営は「八戸市魚菜商業協同組合」（店子等）に委託
- ・古き良き港町八戸の景観と新鮮な「朝ごはん」の提供により、市外からも多くの観光客が訪れる場所

●魚菜市场内 見取図（市場機能を1Fに集約し、2Fに別機能を整備する改修を予定）



●魚菜市場外観



●魚菜市場内（1F）



●魚菜市場営業の様子



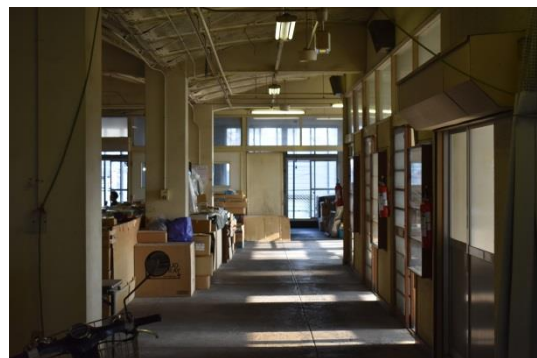
●食事コーナーの様子



●朝食例



●魚菜市場内（2F）



陸奥湊駅前地区再整備事業について

「みなとまち八戸」の顔である湊地区の中でも、市営魚菜小売市場を含む陸奥湊駅通りは、戦後から今日に至るまで、魚の行商人や仲卸業者、買い物客等によって朝を中心とした賑わいを形成しながら、「魚の町」として地域経済を牽引してきた。この歴史は現在にも引き継がれ、地域の特色として観光客等からも評価されている。今後も歴史的背景を踏まえつつ、拠点としての陸奥湊駅前地区の再整備を推進しながら、関連する店舗の誘致や新規起業者の育成などにより、子どもからお年寄りまで誰もが安心して歩き、買い物を楽しみ、時間を消費できる商店街の形成を目指す。

対象エリアの周辺は、市営魚菜小売市場以外にも、館鼻公園、八戸酒造、館鼻岸壁朝市、荷さばき所D棟等の魅力的な観光スポットがあり、また、蕪島・種差海岸など三陸復興国立公園と中心市街地との中間地点にある立地特性を活かしながら、多くの観光客が多様な回遊を楽しむことができる環境整備を図る。

地域住民が湊町の誇りを持って住み続けることができる商店街づくり

① 陸奥湊駅前地区（市場）の再整備

魚の町として発展してきた当地区は、市営の魚菜小売市場と周辺の民間市場が数件立ち並ぶ立地ではあるが、最近では建物の老朽化、店子の高齢化や後継者不足、商業環境の変化等により商業施設としての魅力が低下してきている。

一方で、市場内は昔ながらの趣のある雰囲気的魅力的との市民や観光客からの評価もあるため、これまでの風情を残しつつ市場としての新たな価値や役割を見出す再整備の形を官民連携で一体的に作り上げることにより、当該地区の活性化を図るもの

② 駅前沿道のまちづくり

上記の市場再整備の機会を捉え、条例に基づく認定まちづくり協議会を設立し、地域住民が主体となり、自らが生活を営むまちの将来像の共有（ルール化）を図ることで、陸奥湊特有の昔ながらの景観に配慮しながら、駅前と一体感のある街並みの形成を進めるもの。

また、沿道には市民の台所として日常生活を支える店が連なる商店街があるが、商業環境の変化や後継者不足などで空き店舗が増加していることから、地域の人がこれからも継続して商売を営む、あるいは生活できる環境と、若者等の定住や出店・起業など、新規創業者の受入等を図りながら、地域に不足する機能を誘致（配置）していくまちづくりの取組みも併せて行う。

まちの課題等の認識・共有

「まちづくり協議会」の設立・認定

「まちづくり計画」の策定

「まちづくり協定」の締結



①陸奥湊駅前地区(市場)の再整備 (官民連携事業)

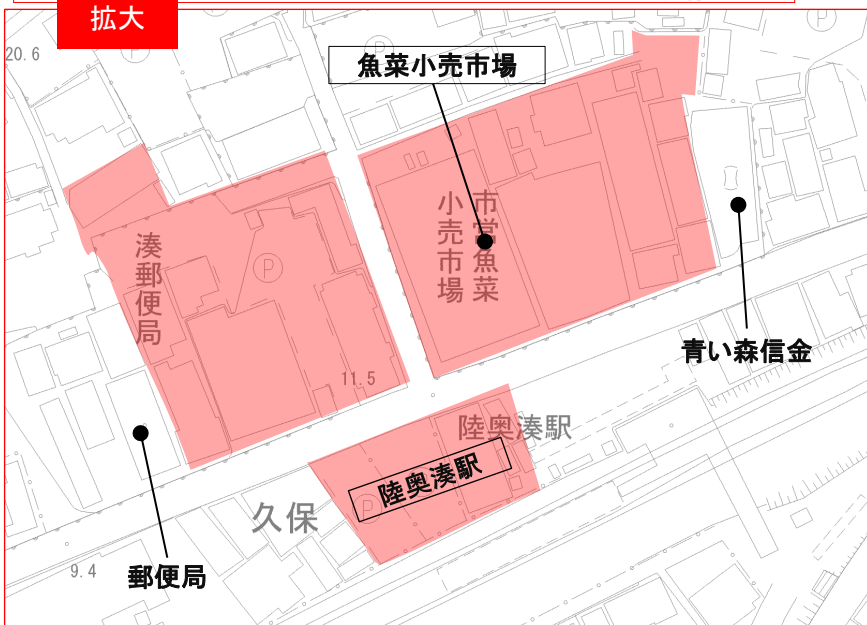
【八戸市】

公共施設である魚菜市場の他広場等必要な公共機能の整備

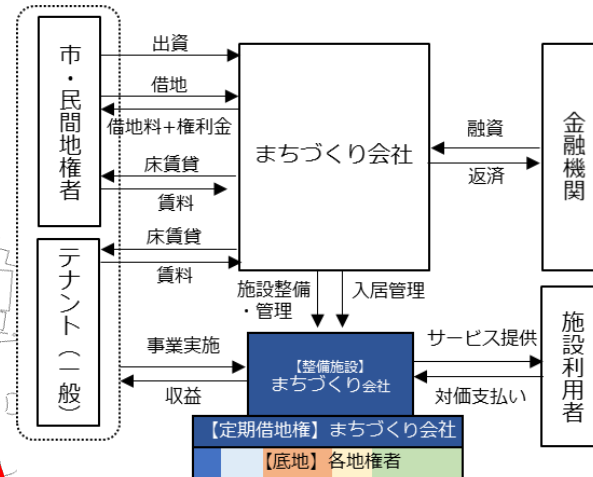
【まちづくり会社】

まちづくり会社が各地権者から借地した上で、施設整備、運営を行う。

再入居希望の従前権利者は、テナントとして入居。余剰床はまちづくり会社が、賃貸又は自ら事業を行う。



※民間事業スキーム



②駅前沿道のまちづくり (主体:陸奥湊駅通り地区まちづくり協議会)

- ・区域内の良好な街並みや賑わいのある商店街形成への将来像を共有(ルール化)
- ・駅前再整備を契機として、一体的に行うことで相乗効果を図る

陸奥湊周辺の主要観光エリア(位置関係)

